



桐

K

I

R

I

目黒学院高等学校同窓会事務局

〒153-8631 東京都目黒区中目黒1-1-50

電話 03-3711-6556

編集発行人 会長 北村 徳章

URL <http://www.meguro.ac.jp/Kiri/>

平成24年度 目黒学院高等学校同窓会総会・懇親会



平成24年度会務報告



同窓会会長

北 村 徳 章

(平成2年 3月卒)

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、日頃から同窓会に対して様々なご支援、ご鞭撻をいただきまして厚く御礼申し上げます。

まず、本誌を通してこの1年間の本会の経過報告等をさせていただきます。

昨年開催した総会にて同窓会役員人事が変わり、僭越ながら私こと北村徳章が同窓会会長として大任を仰せつかること

となりました。25年間という長きに渡り、会長職を為されて来られた安達前会長や、先輩役員の皆様方には、知識も経験も遙か及ばない未熟者ですが、母校目黒学院高校の同窓会長として、精一杯尽力していく所存でございます。

会長就任にあたって紙面をお借りし、学生時代の思い出や今後の抱負などを綴らせて頂きたいと思ひます。

まずは、私が卒業した頃は、男子高校として普通科・機械科の二科があり、中学校はまだ併設されていませんでした。

制服はまだ詰襟で、私が3年に上がる時に新1年生からブレザーに変わるタイミングでした。担任の先生だった恩師の矢野礎一先生に呼ばれ、会議室に置かれた3体の制服マネキンを前に、「北村、どれが良いと思う？」などと、意見を発言させて頂いたことが、今でもとても心に残る出来事で、大変嬉しく思っています。矢野先生には、クラスで一番に誰よりも大変お世話になり、可愛がっていただいた生徒だったと思います。休み時間になると、先生のところに遊びに行き、他愛もない話をしては教室に戻ってみたり、時には学校行事の決め事にも意見を求められながら、本当に楽しい3年間を

過ごさせて頂きました。

今年初めて、同窓会長として母校の卒業式に出席させて頂きましたが、卒業した3年生がその頃のブレザー最後の生徒だと知った時には、何とも感慨深いものを感じました。

今では中高一貫の共学校となり、現在3年生の生徒には女子生徒が在籍していることを考えると、とても不思議な感覚です。来年度の会員には女性が入会し、同窓会としても大きな変化が待っています。同窓会も、より良い形で変化に柔軟な姿勢で迎えらるよう努力して行くとともに、卒業生同士の繋がりを大切に、社会に出て、同窓生同士で助けられるような、同窓会にしていけるよう努力していきたいと思っています。

続いて、昨年7月7日（土）に新宿ワシントンホテル「ウエストシティホール&ウエディングアイ」において、4年ぶりの同窓会総会並びに懇親会を開催いたしました。関口理事長・校長先生をはじめとする学校教職員の皆様方や、恩師の先生方、PTA・父母の会会長等、ご来賓の皆様にご臨席賜りました。

総会では、司会者開会挨拶の後、会長挨拶（安達前会長）、新役員並びに会計監査人の承認など、例年通り進行する中、私も新会長としてご挨拶させて頂きました。ご来賓のご挨拶では、関口理事長・校長先生より御祝のお言葉を頂き、その後総会は滞りなく進み、懇親会へと移りました。

懇親会は着席スタイルのパーティー形式で、アトラクションや親子二代表彰、ショータイム（双子の女性歌手「リリーズ」）、ビンゴゲームなどが開催され、楽しい時間は瞬く間に2時間が過ぎ、恒例の目黒学院高校校歌の出席者全員による大合唱で幕を閉じました。

今回の出席者は昭和20年卒の大先輩から、平成23年卒の新卒会員まで105名（同伴者3名含む）の参加で、閉会する頃には若い会員と先輩会員とのコミュニケーションも図られたようで、あちらこちらで談笑をする声が聞こえてきました。

また総会に先立ち、前回総会から開催された学校見学会も2回目となり21名の方が見学されました。参加された方々は、校舎の耐震補強工事や、共学校に向けての大規模修繕工事も終了し、昔の面影を残しつつも懐かしい母校の姿が大きく変化を遂げた姿などや、特に廊下を女生徒が行き交う姿には、何とも不思議な感じがしたようで、懐かしさと驚きを隠せないようでした。

母校の行事につきましては、例年同様、卒業式、梧林祭に同窓会から代表が出席して、卒業生、在校生に対する祝意と激励を行ってまいりました。卒業式後には、高校3年間を終えられたPTA主催の「謝恩会」に、同窓会から代表が出席して、祝意を表させて頂きました。

本会の会員数について申し上げますと、去る3月10日の第65回卒業証書授与式を以て、新たに201名の新会員を迎え、会員総数では30,501名となりました。このうち、本年の親子2代に亘る卒業生は、2組4名でありました。（8頁記載）

また、例年ご協力をいただいております同窓会賛助会費の

納入については、本年も多数の会員からのご賛同と深いご理解をいただき、平成24年度は6頁にご芳名記載のとおり192名の方々から納入をいただきました。平成24年は23年と比較すると納入者数は14名減少となりましたが、新規に納入をいただいた方々は37名おりました。ここに、謹んでお礼を申し上げます。この賛助会費は、すでに本誌にてたびたびご案内させていただいておりますが、一口1,000円で全会員を対象にご協力をお願いしております。

本年も、本誌の発送とともにすべての会員に、賛助会費（同窓生年会費）の払込通知票を同封させていただきましたので、会員諸兄のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。また、口数は任意ですので、お志のある方は、是非、複数口のご協力を重ねてお願い申し上げます。

今後、クラス会や同期会開催等のため、本会宛てに会員情報の提供を希望される場合は、①使用目的、②提供希望の情報項目、③申し出者の本人確認が出来る書類（運転免許証・保険証等の写し）を添えてお申し出いただくことになります。本会ではこれまで同様、会員情報の管理については細心の注意を払ってまいりますので、ご了承ください。

おわりに、今後もお一層、同窓会に対するご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。会員諸兄、母校在校生並びに教職員の皆様方の益々のご健康とご発展をお祈り申し上げて、会務報告とご挨拶といたします。



優しさと和をもち
大切な建物を守る

優和デザイン

北村 徳章（平成2年卒）

∞∞ 目黒学院卒業生の皆様 ∞∞

建物の改修工事など

お気軽にご相談下さい。

〒115-0045

東京都北区赤羽1-66-10 シティ赤羽602

TEL 03-6802-6536

e-mail : yw-design@ksh.biglobe.ne.jp

ご挨拶と学校の動向



理事長・校長

関 口 隆 司

平成24年度は、女子生徒を受け入れて2年目となりますが、おかげさまで大過なくほぼすべての行事をとり行うことができました。高等学校の生徒会長には女子が就任し、副会長も3名中2名が女子となり、各委員会の活動も以前より活発に行われるようになりました。中学校の生徒会も男子と女子が仲良く活動する様子はとても微笑ましく、男女共学のメリットの一つであると思います。今後も「明朗・勤勉・礼節」の校訓のもと、生徒の個性を良い方向に導くための教育内容の充実に邁進する所存です。

本年4月の新入生は、中学生18名、高校生230名（一貫コース内部進学生を含む）となりました。そのうち女子は中学生4名、高校生特進コース22名となっております。何卒、卒業生の皆様におかれましては、引き続き「新生・目黒学院」へのご支援とご協力を賜りたいと願っております。

以下簡単ですが学園概況のご報告を申し上げます。

1. 学校行事等

前述の通り、平成24年度の目黒学院では、中高一貫コースにおける教育講演会を除いては、すべての行事を予定通り実施することができました。梧林祭では校庭でアームレスリング大会が、記念館では中夜祭でダンスや仮装大会、ミスター目学・ミス目学コンテスト等が行われ、華やかさを増しました。数年来参加をしております中目黒駅前商店街主催の「鳴子よさこい祭り」にはダンス愛好会の生徒男女17名が参加し、好評を博しました。また昨年度に引き続き、相互交流の協定を締結している福島県飯館村に対しては、11月に高等学校生徒会長とともに飯館村を訪問して菅野村長に義援金を手交して参りました。

2. 教職員の異動

専任教諭の松本祥子先生（保健体育）、岡安勇先生（地歴公民）が定年退職されましたが、松本先生は引き続き専任講師として、岡安先生は非常勤講師として授業をご担当されております。また、斎藤真彦先生が退職されました。専任講師では、赤間日吉先生（理科）、関口保先生（地歴公民）が退職され、常勤講師の佐久間一樹先生（数学）が退職されました。一方、松岡久美子先生（国語）、青木寛先生（地歴公民）、堀部浩布先生（数学）を常勤講師としてお迎えしました。更に、会計職員として伊藤高博先生、

横地由妃子先生を、事務職員として武藤郁夫先生をお迎えしました。

現在の専任教員数は68名（専任講師・常勤講師を含む）、専任職員数は13名（カウンセラー2名を含む）となっております。

3. 部活動の状況

関東大会以上に出場したのは、ラグビーフットボール部、空手道部、ゴルフ部でした。ラグビー部は、全国大会東京第二地区予選決勝に進出しましたが惜敗し、残念ながら花園行きの切符を手にすることはできませんでした。今年に入り新人戦ではかつての宿敵・國學院久我山高校と同点で両校優勝となり、関東新人戦では第4位で春の全国選抜大会にも出場しました。また、空手道部は全国空手道選手権大会及び桃太郎杯全国空手道錬成大会に出場、ゴルフ部は関東高等学校ゴルフ選手権に出場しました。

4. 大学進学状況

本校のホームページに本年度の大学進学実績を掲載しております。生徒の大半が大学進学希望であり、生徒の志望進路実現のために教職員一同なお一層真剣に取り組んでいく所存です。勉学であれスポーツであれ、真摯にかつ夢中で取り組み、自分自身の考え方にこだわりを持った「有言実行」の生徒を今後も育てていきたいと考えております。

5. その他

平成24年度は、経済的に就学が困難な生徒の保護者に対して学費を免除する規定に基づき、2名に対して授業料の全額免除を行いました。規程に基づき授業料を免除した場合には、同窓会からその一部をご援助いただく予定であります。

昨年に引き続き、本年3月にトンガからの生徒を2名受け入れております。現在トンガ人の生徒は合計4名で、高校2年生が2名、高校1年生と中学3年生が各1名となっております。高校生3名は全員体育コースに進学し、ラグビーフットボール部に所属しております。2年生のタタフ・テビタ君は、1年生当時に高校日本代表選手に選出されました（1年生では唯一人）。前述の通り、今年は國學院久我山高校と互角に戦える戦力が整い、22年振りの全国大会出場への期待が高まっております。この会報を皆様がお読みの頃には、東京都春季大会の結果も出ていることと存じますが、11月の全国大会東京都予選の結果が今から楽しみです。

会員紹介

母校の誇り



中 川 公一郎

(昭和53年 3月卒)

同窓会報にこんな突拍子もない寄稿をするのは私ぐらいかもしれない。でも、このテーマは母校を語るうえで避けて通れないのではないかと私は予てから思っていた。そこで少しだけ、おつきあい願いたい。

あの頃の母校は、お世辞にも品の良い高校ではなかった。昭和50年代までの目黒高校は「泣く子も黙る」そんな高校だった。お断りしておくが、私は嘘偽りなく目黒の卒業生であることを今でも誇りに思っている。それは言わずもがな、どんなにヤンキー学校でも、個々がどんな境遇の生徒でも、私たちは仲間意識で繋がっていたからにはほかならない。

当時、「目黒」はラグビー部が全国区の知名度を有していた。反面、ヤンチャな生徒も多く先生方のご苦勞も並大抵ではなかったと想像できる。悪さをすれば、先生は生徒を即座に殴ったしそこに容赦はなかった。しかし、制裁を受けた生徒は今の子供たちと違い、逆切れなどはなかった。確かに無鉄砲はいたが、無軌道に通り魔的に荒れ狂う奴はいなかったのだ。

そんなクラスには、何人かの年上のクラスメートがいたし、何人かは退学していった。理由のご想像の通りである。要するにクラスのひとりひとりにそれぞれの「事情」があったのだ。すでに十代、場合によってはハタチそこそこで「事情」を背負った連中がほとんどだといってもいいだろう。だからこそ、そこには「絶妙な距離感」の結束力があつた。友情や、愛情。教育とか、使命感とかそんな美辞麗句じゃない、阿吽の呼吸みたいな距離感があつた。実はこんな出来事があった。ある年上のクラスメートMが処分累積で退学することになった。退学の当日、慣例では掲示板に氏名が貼りだされるだけで本人は登校することはないのだがこの日は違った。

先生：「実は今日でMは目黒高校を退学することになった。理由は君たちも知ってる通り。本当は学校には来ないはずだったんだがMがどうしても挨拶したいというので……。ハイ、こっちでホラッ!」

M：「えー今日、自分はクビ(退学)になりました。みんなはマジメにやれよ!ありがとう!」

確か、こんな素っ気ないメッセージだったんだろうか。教室からは拍手こそなかったもののいくつかの声援がMに向けられた。Mは右手を一振りして教室から出ていった。Mに限らず、ほかの奴らもちろん私も高校生活には「事情」を抱えていた。ツッパリでも、そうじゃなくとも就職、進学、家庭、

あるいは国籍、はたまた身体的なハンディキャップなどと各々が「事情」と真正面から向き合っていた。クラスには、そこを尊重し合うような空気というか、先述した「絶妙な距離感」があつたように思う。私はそんなクラスや先生たちとの繋がりが心地よかったし好きだった。

卒業後、同窓との繋がりはほとんど途絶えている。恩師の岩間先生、望月先生、ブラバンの杉田先生、三坂先生とはいまだに年賀状などでのやりとりは続いてはいるが、同窓のみんながどうしているかは、わからない。「絶妙な距離感」にも隔絶の感ありだ。

卒業して35年。私は両親の郷里広島へ移り大学進学した。その後サラリーマン、家業の喫茶店を継ぐも昨年閉店し、現在はまたサラリーマン生活にもどって今に至っている。一方、結婚して今年で27年目。ふたりの息子はすでに社会人となり、長男は近々結婚する。早い。本当に早い。振り返り回顧する暇もない。

実は3年ほど前から、梧林祭に出かけるようにしている。校舎や街の風景に名残りはあるものの、生徒たちには当時の私たちのようなヤンチャなキャラクターはまるでなかった。時代は移り変わる。学生服からブレザーに変わり、中学が併設され、校名が変わり、共学になり、生徒たちのキャラクターも今風に変わってしまっていた。決して、後輩たちが「進化」すること自体は否定するわけではないが、しかしどうか「誇り」までも失わないでほしいと切に願ってやまない。

川崎パシフィック法律事務所

弁護士 種 村 求 (代表)

弁護士 岩 永 和 大

事務局長 大 川 信 也 (昭和57年卒業)

◆主な取扱事案◆

交通事故、相続・遺言、債務整理
労働問題、債権回収、企業法務他

交通事故被害	相談料 0円
債務整理に関する相談	
その他の法律相談	初回相談料 0円

◆ご相談・お問い合わせ受付時間◆

平日 9時～18時

平日夜間、土日祝日の相談可 (要予約)

Tel 044-211-4401

URL : <http://www.kawasakipacific.com>〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町11番地1
パシフィックマークス川崎ビル6階JR 川崎駅東口
京急川崎駅
より徒歩1分

卒業後50年が過ぎ振り返って思うこと



上 島 宣 之
(昭和38年 3月卒)

私が目黒学院高等学校(旧目黒高等学校)を卒業してから、早50年が過ぎました。毎年、送られてくる会報「桐」を読んでいますと、目黒学院もずいぶんと様変わりしたと思います。当時あった機械科がなくなり、機械科を卒業した私にとっては、少し淋しい思いがしたことを思い出されます。その他には中学校ができ、また男女共学が実施されました。私どもが卒業する時、機械科の大半が就職が決まり、意気揚々と卒業したことを覚えています。就職して新入社員として配属される時、目黒高等学校機械科卒業が会社側に好印象を与えていました。「機械を扱え、図面も引けるでしょう」という

ことで、個人の希望を受け入れてもらえ、入社数年後にはある程度の設計を任されて、就職するには機械科を卒業したことを良かったと思ったものです。

最新の学校案内「目黒学院高等学校2013」の中で、関口校長先生の建学の精神「明朗・勤勉・礼節」が記載されておりました。昨年、同窓会懇親会が開催された時、当日実施された学校見学にも参加させてもらいましたが、その際一番感動したことは、関口先生が言っておられる「礼節」が実践されていたことです。当日、私たちを案内していただいた先生が、在校生に対して「君たちの大先輩だぞ。挨拶をしなさい。」と言ってくれ、それに対して生徒たちの素直な元気一杯の挨拶に触れ、大変清々しい思いをしたことを覚えています。はたして私たちの在学時代はどうであったかと、あらためて昔を振り返った次第です。

世の中の移り変わりで、企業等もいろいろと改革が進んでいますが、「桐」を読んでいますと目黒学院もそれに漏れず学院としての努力が進んでいることを確認させてもらいました。母校におかれては、今後とも卒業生が誇れる学園作りを何とぞお願いいたします。

同じ学舎の友

新 地 邦 和
(昭和63年 3月卒)

私は自動車が好きなこともあって、目黒高校の機械科を受験しました。しかし、数学でひっかかってしまい、普通科へ入学しました。在学中のクラブ活動は、1年の時は写真部、2年からは英語研究同好会に入部しました。当時の思い出では、色々なことに好奇心を持っている友と、色々なことを語り合った日々がとても懐かしく思われます。

私は、中学時代、写真部で活動していたこともあり、私自身が河口湖や、奥多摩の自然に触れる中で、卒業後は山の写真を撮るようになりました。現在は、町中や交差点、夢一杯の子供たちが遊ぶ小さな公園での風景なども好んで撮影しています。先日は、かつて在学時代に友

たちと語り合った通学路の目黒川を撮りに行きました。かつての通学路は景色が新しくなりましたが、後輩たちが夢を語り合うのは今も変わっていないと思いました。

母校が共学となって3年、元男子校とあって特に女子生徒には戸惑いがあるとの話も聞きましたが、そんな抵抗を感じることはありません。在校生には「同じ学舎の仲間じゃないですか。」と言いたいです。そして、学校を出てもまだまだもっと学ぶべきことがあります。いつまでも学び続けることが大事です。自由に視野を広げて、物事を見つめていくことも大事です。そんなことを思い、若い後輩たちの姿を思い浮かべるたびに、まだまだ私自身も負けていけないと思う、今日この頃です。

懇親会開催模様



平成24年度総会・懇親会 出席者のご芳名

平成24年 7月7日（土）、新宿ワシントンホテル「ウエストシティホール&ウエディングアイ」にて開催された同窓会
総会・懇親会にご出席された方は、下記の方々です。

(敬称略)

〈ご来賓 学校関係者 7名〉 〈会 員 83名〉

理事長 関口 隆司 S.20年卒 岡本誠之助
常任理事 松本 武巳 S.21年卒 久我茂三郎
事務長 佐藤 公俊 S.23年卒 澤田 允孝
事務主任 高野 宏昭 S.25年卒 福地 隆
事務 白石 裕紀 S.27年卒 加藤 俊一
教 諭 藤牧 朗 S.28年卒 須藤 昭男
奥山 直弥 S.30年卒 大谷 一男
〈ご来賓 恩師 3名〉 S.31年卒 小川 敏彦
元 校 長 須藤 亘啓 S.32年卒 金子 忠夫
元副校長 小山 徹 S.33年卒 木村 義男
元 教 諭 工藤 徹 S.36年卒 武田 輝男
〈ご来賓 PTA・父母の会 3名〉
PTA会長 堀 敏昭
PTA副会長 浜 利勝
父母の会会長 落合 弘樹
〈親子二代卒業生招待者 6名〉
S.54年卒 尾崎 貴生
H.23年卒 “ 栄俊 S.32年卒
S.58年卒 鈴木 純也 S.33年卒
H.23年卒 “ 豪介
S.60年卒 安岡 克彦
H.23年卒 “ 優斗

S.36年卒 小川 直巨
小村 良雄
富永 紘
野村 有章
松本 章
丸山 忠雄
山本 明秀
和田 満男
中村 忠正
上島 宜之
平井 洋
武山 義正
柿ノ迫 康憲
市川 重雄
濱田 富夫
安達 謙
石井 洋
岩田 芳則
香取 伸治
小林 一夫
唐鎌 敬
武田 敬

S.43年卒 水谷 司
森下 保隆
S.44年卒 小林 隆
S.45年卒 日下部和俊
高柳 進
S.46年卒 小林新太郎
S.47年卒 田中登志明
S.49年卒 中田 昌夫
S.50年卒 高木 英二
鶴見 正幸
南澤 千尋
S.53年卒 小林 秀二
斉藤 良平
S.57年卒 大川 信也
竹澤 洋行
池上 竜
大野 貴史
北村 徳章
石川 伸雄
H.7年卒 鈴木 大介
H.8年卒 大倉 考裕
H.14年卒 大倉 耕平
H.17年卒 澤田 耕平

H.19年卒 荒川 和之
甲斐 大嗣
H.21年卒 新井壮一郎
稲田 有佑
大石 幹矢
大塚 卓司
荻原 元樹
菊池 伴実
佐々木 駿
島村 忠宏
田中 宇宙
藤尾 学
カセコ・アノビ
松崎 暁洋
三塚 遼
H.23年卒 藤田 康太
小幡 大揮

総出席者 105名
(含む・同伴者他 3名)

同窓会賛助会費 納入者のご芳名

平成24年度分の賛助会費として、本年3月末までに納入のあった方は、
下記の192名の方々です。ここに、謹んでご報告申し上げます。

★印は新規納入者

ア 阿妻 靖彦 秋元 信二 秋本 康夫 浅野 進 安達 富夫 阿部 容大 堀 文孝 有 洋 安藤 龍礼	オ 遠藤 尚之 大河原 雄一 大谷 一男 大淵 文夫 大本 康介 ★大山 翔平 小川 靖郎 荻堂 直巨 奥住 盛久 奥住 明弘 奥住 安也 奥住 直也 奥野 安弘 小澤 和夫 小澤 幸二 ★小田 重仁 信介	★木村 光利 木村 義男 喜友名 朝典	ク 久我 茂三郎 日下部 和俊 楠本 盛信 楠本 盛仁 ★窪山 昌宏 蔵田 和也 桑原 徳郎	コ 小岩 井 晃 河野 潔 古賀 正勝 小嶋 靖夫 ★小清水 敏 ★小林 慎弥 ★小村 良雄	サ★ 齊藤 正幸 斎藤 泰一 五月 進一 櫻井 隆太 佐藤 静男 佐藤 二郎 佐藤 洋祐 狭山 正則 澤田 允孝 志賀 政美	柴田 治男 蕭 欣志 白石 郁男 白井 貞夫	ス★ 杉沼 讓 杉本 法男 鈴木 薫 鈴木 邦 ★鈴木 翔也 ★鈴木 貴博 ★鈴木 智生 ★鈴木 亮一 ★須和 孝平	セ★ 清慶 一夫 ★芹澤 誠	ソ 副島 啓太 外山 知幸 外山 昇雄 染谷 孝雄	タ 高野 昌弘 高橋 修 高橋 英雄 高橋 弘樹 高橋 弘樹 高畑 哲男 滝口 勇 竹井 実 竹沢 洋行	武田 敬 田苗 公己 田中 洗平 田中 伸一 田中 清三郎 ★田中 登志明 ★田中 道敏 ★田邊 有城	ト 土井 義夫 東条 諭二郎 富田 大信 ★富永 紘	ナ 中島 司郎 永田 長三郎 長原 一夫 中村 重和	ニ 西田 尚広 ★西村 俊祐	ネ★ 根城 裕典	ノ 野寺 伸一 ★野村 伊緒里 ★野村 有	ハ 長谷川 洋一 ★羽根 佑輝 ★春川 猛	ヒ 土方 国任 比田井 洋司 平井 洋和 廣木 正和 平嶋 元二 平野 啓三 平野 泰三 平畑 龍芳	フ★ 福澤 賢隆 ★福地 茂裕 藤井 泰信 藤岡 英夫 藤兼 保 藤野 雅司 藤平 琢磨 藤森	ホ★ 星野 充範 洞 芳彦 堀江 清 本間 徹也	マ 前川 真嗣 前嶋 喜義 牧谷 眞吾 松本 旺氣 松本 淳 松本 誠治 ★丸山 忠雄	ミ 三神 和夫 三柴 健太郎 水谷 清一 水野 信一 宮川 良雄 宮田 仁	ム 村石 圭樹 村山 栄助	ヤ 矢内 敏郎 矢川 福太郎 矢島 陸雄 安田 憲二 矢野 源太郎 ★山縣 義明 山口 敏夫 山崎 俊男 ★山本 明秀 ★山本 大介 山森 敦	ヨ 吉井 智宏 吉田 章夫 ★吉田 達夫	ワ 分野 和昭 渡邊 誠一 ★和田 満男
---	---	---------------------------	--	--	---	---------------------------------	--	-------------------	------------------------------------	--	--	-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------	----------	-----------------------------	-----------------------------	---	--	-----------------------------------	---	--	------------------	---	----------------------------	----------------------------

計192名
(内新規納入者37名)

平成24年度決算報告書

平成24年4月 1日から
平成25年3月31日まで

(収入の部)		(単位：円)	
科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
同 窓 会 費	2,506,800	2,506,800	696名分
入 会 金	620,000	620,000	310名分
賛 助 会 費	600,000	649,000	192名分
総 会 会 費	282,500	371,000	86名分
寄 付 金	130,000	135,000	
雑 収 入	45,000	42,937	会報掲載広告代及び預金利息
当 期 収 入 合 計	4,184,300	4,324,737	
前 年 度 繰 越 金	2,705,814	2,705,814	
収 入 合 計	6,890,114	7,030,551	

(支出の部)		(単位：円)	
科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
総 会 費	2,455,000	2,344,361	
行 事 費	1,150,000	1,131,101	
通 信 費	1,100,000	1,011,623	会報発送郵便料
印 刷 費	190,000	190,181	賛助会費振込用紙・出欠はがき
雑 費	15,000	11,456	
会 議 費	106,000	81,038	
役 員 会 費	85,000	64,170	出席者食事代
委 員 会 費	15,000	8,468	
通 信 費	5,000	8,400	開催通知郵便料
雑 費	1,000	0	
補 助 費	380,000	330,000	
部・同好会補助	350,000	300,000	在校生部活動補助他
文 化 祭 補 助	30,000	30,000	梧林祭の祝金
事 務 費	585,000	513,043	
人 件 費	340,000	332,710	会報発送手間代・役員手当等
事務消耗品費	160,000	132,633	会報発送用封筒代他
交 際 費	60,000	26,830	慶弔費
交 通 費	1,000	0	
雑 費	24,000	20,870	
名 簿 費	250,000	240,000	
機 関 紙	250,000	240,000	15,000部作成
奨 学 金	400,000	400,000	在校生奨学金2名分
予 備 費	100,000	0	
当 期 支 出 合 計	4,276,000	3,908,442	
次 年 度 繰 越 金	2,614,114	3,122,109	
支 出 合 計	6,890,114	7,030,551	

〔特別積立金〕		(単位：円)	
保 管 種 別	本年度末	前年度末	
定 期 預 金	7,000,000	7,000,000	

平成24年度決算報告について

平成24年度は、総会・懇親会の開催年に当たったため、当初予算においては、単年度収支で9万円の支出超過を予定して開始されましたが、収入は予算に対して14万円の増加となり、支出は極力経費の節減に努めたことにより、予算に対して36万円の減少となりました。

この結果、単年度収支は予算とは一転して41万円の収入超過となり、次年度への繰越金は312万円となりました。

1. 収入の部

同窓会費、入会金は予算どおり収受し、賛助会費、総会会費、寄付金は、それぞれ予算比で増加しましたので、収入合計では、

平成25年度予算書

平成25年4月 1日から
平成26年3月31日まで

(収入の部)		(単位：円)	
科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
同 窓 会 費	2,981,400	2,506,800	474,600
入 会 金	714,000	620,000	94,000
賛 助 会 費	600,000	600,000	0
総 会 会 費	0	282,500	△ 282,500
寄 付 金	0	130,000	△ 130,000
雑 収 入	43,000	45,000	△ 2,000
当 期 収 入 合 計	4,338,400	4,184,300	154,100
前 年 度 繰 越 金	3,122,109	2,705,814	416,295
収 入 合 計	7,460,509	6,890,114	570,395

(支出の部)		(単位：円)	
科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
総 会 費	1,281,500	2,455,000	△ 1,173,500
行 事 費	0	1,150,000	△ 1,150,000
通 信 費	1,120,000	1,100,000	20,000
印 刷 費	160,000	190,000	△ 30,000
雑 費	1,500	15,000	△ 13,500
会 議 費	139,000	106,000	33,000
役 員 会 費	133,000	85,000	48,000
委 員 会 費	0	15,000	△ 15,000
通 信 費	5,000	5,000	0
雑 費	1,000	1,000	0
補 助 費	380,000	380,000	0
部・同好会補助	350,000	350,000	0
文 化 祭 補 助	30,000	30,000	0
事 務 費	611,000	585,000	26,000
人 件 費	350,000	340,000	10,000
事務消耗品費	175,000	160,000	15,000
交 際 費	60,000	60,000	0
交 通 費	1,000	1,000	0
雑 費	25,000	24,000	1,000
名 簿 費	256,000	250,000	6,000
機 関 紙	256,000	250,000	6,000
奨 学 金	400,000	400,000	0
予 備 費	100,000	100,000	0
当 期 支 出 合 計	3,167,500	4,276,000	△ 1,108,500
次 年 度 繰 越 金	4,293,009	2,614,114	1,678,895
支 出 合 計	7,460,509	6,890,114	570,395

予算に対して14万円の増加となりました。

2. 支出の部

総会費をはじめとしたすべての経常支出科目において節減努力した結果、予算対比で36万円の減少となりました。

なお、在校生に対する奨学金支出は、予算どおりの40万円を執行しました。

〔会計監査報告〕

私たちは、平成24年4月1日から平成25年3月31日までの平成24年度における会計監査を行い、次のとおり報告する。

会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて監査を行った結果、公正かつ相違ないことを認めます。

平成25年4月13日 会計監査 石 渡 博 己
会計監査 香 取 芳 則

平成25年度予算について

平成25年度収支予算は、平成25年度の事業計画と平成24年度の収支実績とを勘案して編成しました。

1. 収入の部

同窓会費は828名、入会金は357名を収納予定人員と積算し、また賛助会費は過去実績を勘案して延べ600口を収納予定として予算計上しました。

本年度は、総会・懇親会が開催されないことに伴い、総会会費及び寄附金収入については、予算未計上となりました。

2. 支出の部

本年度の事業計画は、①同窓会だより「桐」の発行、②在校生の部・同好会に対する補助、③在校生に対する奨学金支出等が主なものです。

これ以外の経常的運営費については、次回の総会・懇親会開催に備えて極力抑制した予算を編成しました。

この結果、次年度への繰越金は429万円を予定し、単年度収支では117万円の収入超過予算となりました。

ご 挨拶



相談役（同窓会前会長）
安 達 富 夫
(昭和43年 3月卒)

昨年7月7日開催の総会・懇親会をもって、同窓会会長職を北村徳章会長へとバトンタッチさせていただきました。振り返え見れば昭和63年10月、前任会長の突然の辞任に伴い会長職務代行となり、翌平成元年7月開催の本会臨時総会で本会会長に就任して以来、会長在任期間は約四半世紀の期間となりました。この間、母校の理事長、校長先生をはじめとして諸先生方、事務職員の皆様、また本会会員の皆様方には、数々のご支援、ご協力を賜り大変お世話になりました。そして長年にわたって私を支えてくださった、本会役員の皆様にも大変感謝いたしております。お陰様をもちまして、本会の諸先輩方がこれまで

築いてこられた伝統を絶やさず、また本会活動の歩みを止めることなくようやく若き新リーダーへ引き継ぐことができました。誌上を借りて厚く御礼申し上げます。

私が会長に就任した時の本会の会員数は約22,350名でしたが、退任時の会員数は30,300名とこの四半世紀で約8,000名増加しました。そして、就任時の最大の課題は、財政基盤の確立でした。この難題に長年にわたって役員が一丸となって取り組んできた結果、本誌掲載の決算報告および予算からご理解いただけますよう、当面の安定財政を確保するに至りました。また、平成19年度からは私の念願でありました在校生への奨学金給付事業を、わずかではありますが実施できるまでになりました。

さて、現在、本会が抱える課題は、本会活動を永続的に支えていく後継の人材確保です。来年度からは、本会会員に女性会員が加わり、本会の運営も自ずから見直しが求められてくると思います。今後は、裏方として本会の課題解決に向けて、さらに努力していく所存でございます。長年にわたりまして、関係各位皆様方のご支援、ご協力、まことに有り難うございました。

◆ 同 窓 会 役 員 氏 名 ◆

平成24年度の総会・懇親会にて、選任された本会の役員の方々は、次のとおりです。
なお、任期は平成27年の総会開催時までです。

役 職	氏 名	卒 業 年									
相談役	久我茂三郎	昭和20年	副会長	平井 洋	昭和38年	広 報	石川 伸雄	平成 7 年			
"	武田 広	昭和33年	"	市川 康憲	昭和42年	会 計	木村 義男	昭和30年			
"	安達 富夫	昭和43年	総 務	鶴見 正幸	昭和50年	"	大川 信也	昭和57年			
会 長	北村 徳章	平成 2 年	"	高木 英二	昭和50年	会計監査	石渡 博巳	昭和32年			
副会長	須藤 昭男	昭和27年	"	小林 秀二	昭和53年	"	香取 芳則	昭和43年			
"	矢川福太郎	昭和30年	広 報	小林 隆	昭和44年						
"	土方 国任	昭和31年	"	井口 見司	昭和53年						



新役員一同

◆恒例「親子二代卒業生」ご紹介◆

矢 藤	清（父）	昭和57年3月卒
	彰 悟（子息）	平成25年3月卒
矢 嶋	豊（父）	昭和54年3月卒
	健 太（子息）	平成25年3月卒

賛助会費の納入をよろしく
お願いいたします！
賛助会費：一口1,000円